

さかずき じ ぞう 盃地藏 一勝見一

斎宮勝見地内に盃地藏さんが、祭っております。

火除け、子安地藏として訪れる人が絶えないといわれていますが、それにまつわるこんな話があります。



ずっとむかしのこと、たくましい一人の武士がおりました。

その武士と近くに住む貴族の娘が恋仲になって、二人は日に日に思いを募らせていきました。

ある日、武士が無理に^{さかずき}盃をかわそうと、娘の袖を引っ張って呼んできました。

そして、めでたく二人は盃をかわして夫婦になりました。

その、引っ張ってきた道に「袖」という名がついたそうです。（袖が今ではソーデと呼ばれています。）

このようにして盃地藏さんができ、南向きの地藏さんは、縁起がええといわれ、みんなから慕われてきました。

ところが、何年かたったある日、この地藏さんを公民館へ移しました。





すると、^{りゅうこうびょう}流行病がでて、「これではいかん」ということで、元の場所へ戻した、ということもありました。

江戸時代、山田奉行所より庄屋を決める相談役として、一人の農民が選ばれました。

この農民には、めでたい盃地蔵の姓がさずけられました。

それが、いま勝見でただ一軒しかない盃さんというお家です。

その姓は何代も何代も受け継がれています。



盃地蔵さんは参宮街道筋にありましたが、道路拡張工事で現在は斎宮簡水水源地の前に祭られています。

「今でも勝見上組の人たちに見守られ、毎年八月十六日には初盆の供養が行なわれていますよ。」と、盃幸三郎さん(80)は話される。



今も地域で大切に
祀られている盃地蔵

キーワード：みんわ、勝見、盃地蔵